

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320008

研究課題名(和文) 宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究

研究課題名(英文) Research on the Ming edition of Daoist Canon mainly focusing on the Canon in the Imperial Household Library Japan

研究代表者

横手 裕 (YOKOTE, YUTAKA)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：10240201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,500,000円

研究成果の概要(和文)：本邦の宮内庁書陵部に所蔵される道蔵について、初歩的な現状調査を行った。特に三洞四輔の合計七部のうち、最初の一部である洞真部について、各巻ごとに書誌情報等を記載した目録を作成した。またこの道蔵の由来や現在の保存状況、他の道蔵との比較により明らかになったこの道蔵の特長と従来の通行本の問題点等について、調査報告を作成した。さらに京都大学附属図書館所蔵の道蔵など国内の他の道蔵や海外の道蔵、あるいは道蔵と関連の深い国内の仏蔵(大蔵経)についても初歩的な調査を行った。

これらの成果は、最終的に冊子体の研究報告書『宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究』にまとめられて刊行された。

研究成果の概要(英文)：A preliminary investigation on the Daoist Canon in the Imperial Household Library of Japan was performed by compiling a catalogue which contains the bibliographical information of each volumes in Dongzhen Bu, the first section of the seven sessions of Daoist Canon (Three Caverns and Four Supplements, Sandong sifu). In addition, an investigation report on the history, the preservation condition of the Canon, its merits as well as the demerits of the popular version of Daoist Canon by comparison among various versions of Daoist Canon, was completed. Furthermore, preliminary firsthand investigation on the other Daoist Canon in (e.g. Kyoto University Library) and outside Japan, as well as the closely related Buddhist Canon (Tripitaka) in Japan was also completed.

The findings above were published in the booklet form report on the "Research on the Ming edition of Daoist Canon mainly focusing on the Canon in the Imperial Household Library Japan".

研究分野：中国哲学

キーワード：道蔵 道教 大蔵経

1. 研究開始当初の背景

道蔵は中国の歴代の王朝で作成されてきたが、元朝以前のはほとんど現存しない。今日まとまった分量が残るのは、明朝の正統年間に完成したいわゆる正統道蔵である。この明版の道蔵も残存数は多くはなく、その存在が比較的知られているものとして従来、北京白雲觀旧蔵の中国国家図書館所蔵本、上海白雲觀旧蔵の上海図書館所蔵本などのほか、フランス国家図書館所蔵本、そしてわが宮内庁書陵部所蔵本があり、全世界で僅か4、5セットが話題にのぼるくらいであった。このうちの北京白雲觀旧蔵本が影印されて唯一通行し、一般的に「道蔵」として研究者等に利用されている。

わが国に残る宮内庁所蔵本については、古くは宮内省図書寮編『図書寮漢籍善本書目』（昭和5年）のち宮内庁書陵部編『図書寮典籍解題』（昭和35年）に概要の紹介があり、また宮内庁書陵部編『和漢図書分類目録』（昭和26年）の哲学・道家類に『道蔵経』4115冊460函として各函ごとに現存する經典名が掲載されている。かつてこの道蔵の調査を試みた窪徳忠によれば（「宮内庁書陵部所蔵の道蔵」、『東方宗教』7、および「涵芬楼影印本道蔵校勘記」、『東方宗教』10）、北京白雲觀本と比較して書陵部本は別系統のものと思われるほど異なっており、前者が全体として清朝の道光二十五年の重修を経たものであるのに対し、後者は万暦版も混じるが大部分が正統版のままであると思われるとしている。さらに後者は図版が精密であること、中国人と日本人の両方の補鈔があることなどの違いが述べられている。このように、宮内庁本道蔵は非常に貴重な資料的価値があることが考えられる。窪氏の後、柳存仁「道蔵刻本之四個日期」（『歴史における民衆と文化 酒井忠夫先生古稀祝賀記念論集』、国書刊行会、1982年）にも考察があり、窪氏とはやや違った論じ方がされていて意義深い、残念ながら短時間の日本滞在の見聞録となっている。その後、これら以上の詳細な調査を加えた報告は現れなかったように思われる。

研究代表者は、平成17年より5年間をかけて東京大学総合図書館所蔵の明版嘉興大蔵経の調査を行った。その成果として、平成22年9月に『東京大学総合図書館所蔵嘉興大蔵経 目録と研究 目録篇』、『同 研究篇』が完成した。この調査活動を通して研究代表者は仏教の大蔵経目録の作成方法を学び、また国内に存在する大蔵経については仏教研究者に注目されて陸続と目録が作られている現状を知った。これらのさまざまな目録に目を通しつつ、同じ大蔵経であっても、伝来や補修の経緯等により内容はそれぞれ甚だしく異なっている実情に驚き、個別の大蔵経目録を作成する必要性を深く理解した。そして研究代表者の専門領域である道教研究に関して、調査の滞っている宮内庁本道蔵

についても、是非詳しい調査研究が必要であるとの強い認識をもつに至った。

2. 研究の目的

本研究は、本邦の宮内庁書陵部に所蔵されている明版の正統道蔵について、詳細な書誌情報を記録した目録を作成し、今後の学術研究において有効に利用してゆく道を開くことを第一の目的とした。ただし、道蔵は膨大な分量があり、一度の科学研究費補助金期間で何の準備もなく全体の詳しい調査を完了することは基本的に不可能と言える。そこで今回の調査では、道蔵全体を調査してゆく場合の適切な予算規模や人員設定等を考えるための予備調査を兼ねて、道蔵を構成する三洞四輔すなわち洞真部、洞玄部、洞神部、太玄部、太平部、太清部、正一部の全7部のうち、最初の1部である洞真部のみを対象とした。

また、あわせて日本と海外に残存する明版道蔵についても網羅的な調査を行い、それぞれの由来や作成時期、宮内庁本道蔵との関係についても調査を行うこと、さらにこれらの調査で明らかになった道蔵の刊記等の情報と、同時代に作成された仏蔵（仏教大蔵経）の情報とを対照し、明代における道蔵の刊行・重修等の具体的経緯についても考察を加えることを目指した。

3. 研究の方法

(1) 宮内庁書陵部所蔵道蔵(洞真部)の調査。
研究代表者は事前に宮内庁書陵部で簡単な実見調査を行い、道蔵について書陵部は全て写真撮影が完了してフィルムが存在すること、およびそれをもとにコピー用紙等に焼き付けて複写したものが購入可能であることを確認してあった。また、この写真撮影に基づく複写版の道蔵経は、現物にあるはずの扉絵、龍牌など書誌的に重要な部分はかなり省かれている可能性があるのではないかと推測した。

これらを踏まえ、次のように作業を進めた。まず、宮内庁本の道蔵のうち、洞真部部分について作業用の複写を購入し、この複写本を使って現在通行している旧北京白雲觀本の影印本とどのような違いがあるか、東京大学内に設置する作業室にて丁寧に対照作業を行った。巻頭部（あるいは巻末）の印記の有無、各丁の版式の相違をはじめ、句読点の存在、補写の有無、書き込み等の有無についてチェックした。テキスト部分以外の扉絵や龍牌等については、書陵部へ赴いて一帖ずつ現物を見て有無や内容を確認した。補写等についても複写本を見ただけではわかりにくい部分については、やはり現物を見て確認した。

これらの作業にあたっては、若手研究者やアルバイト学生等の協力を得て小さな調査組織を作り、詳しい書誌的データの採録の補助をしてもらった。この調査団のリーダーは、研究代表者ととともに5年間にわたって東京

大学総合図書館所蔵の嘉興蔵の調査を行い、データ収集のノウハウを熟知した宮田義矢氏（東京大学大学院生、当時）および若手道教研究者の酒井規史氏（早稲田大学大学院生、当時）にお願いした。この他、主に東京大学の大学院生等にも作業の補助を依頼した。これらの作業には相当な労力を要するため、協力者たちには相応の謝金を支払った。

なお、これらの調査計画の概要については事前に宮内庁書陵部主任研究官の田代圭一氏に説明し、調査への協力を快諾いただいた。そして田代氏のご高配により、細かい問題等については随時田代氏および書陵部のスタッフの方々にご教示等を頂戴しながら進めることができた。

(2) 日本国内に散在する正統道蔵の個別文献の調査、そのおよび書誌的データ等の採録。

日本国内には宮内庁書陵部のみならず、正統道蔵に含まれていないはずの個別の經典類が分散して存在している。たとえば、京都大学附属図書館には十数部ほどが所蔵されている。研究代表者は京都大学に奉職していた15年前にこれらについて実見しているが、比較的状态が良いと思われる扉絵をもつもの、読点や圈点等の書き込みのあるものがみられるなど、注目すべき特徴も確認された。これらは装丁等からすると宮内庁本とはひとまず別物かと思われるが、なお詳しい検討を要すると思われた。そこで京都大学の金志玟氏にこの京大本道蔵の調査を相談したところ、快く承諾していただき、期待以上の詳細な調査と考察を行ってくださった。

このほかにも、一般的な寺院に道蔵の残簡が存在するという情報を大蔵経研究者より耳にしたことがある。国内の仏蔵・道蔵関係の文献の所在や状況の情報に詳しい梶浦晋氏（京都大学人文科学研究所助手）には本研究への協力を快諾いただき、数多くの重要なお教示を頂戴しているが、東京大学総合図書館所蔵嘉興蔵の調査過程で研究交流が始まった国内の大蔵経研究者の方々にも情報提供をお願いしつつ、これらの散在する道蔵本經典類を出来る限り網羅的に調査し、実見して宮内庁本と同様に詳しい書誌的データの採録を目指した。

(3) 日本に存在する永楽北蔵などの明版仏蔵（官版）の現物の実見と、道蔵の現物との比較検討、および明代の道蔵・仏蔵の作成や重修活動についての考察。

研究代表者はかねてより、正統道蔵と永楽北蔵の編集刊行の時期がおおむね一致することとともに、版式が酷似していることに注目し、これらの作成が同時に行われたのではないかと推測していたが、これは影印版および写真画像を見た比較の上での判断であった。そこで、今回は双方を実際に見て、実物の寸法や紙質等を細かく調査しつつ比較検討することを目指した。これらの仏蔵関係の

調査は、特に経験豊富な研究分担者の渡辺が中心となって進められ、現在も継続している。

また、これらの実地調査と平行して明代の関係資料について文献上の精査を行い、道蔵と仏像の印刷や刊行、各地の道観・仏寺への下賜等の関連を示す記述を洗い出す作業を開始した。

(4) 北京、上海など海外に所蔵される正統道蔵の現物の実見と、宮内庁本との比較。

これまで、中国大陸には北京国家図書館、上海図書館、四川大学の三機関に正統道蔵が所蔵されていることは比較的知られていた。これらのうち、今回は北京国家図書館、上海図書館について実地調査に赴き、可能な書誌データを採取し、あわせて宮内庁本との比較を行うなど、明代の道蔵刊行・修復事業等の実態についてさまざまな角度から情報収集を試みた。北京と上海では、二ノ宮聡氏（関西大学大学院生、北京大学高級進修生、当時）の協力を得た。またフランスの中国学事情に詳しい志野好伸氏（明治大学）にご助力いただき、フランス国家図書館の道蔵も実見し、また同図書館の中国文献責任者のナタリー・モネ氏から道蔵調査にご理解をいただくことができた。フランス本の道蔵の調査は志野氏にご担当いただき、その後も目録の作成を目指して書誌データ収集を続けている。

4. 研究成果

研究成果報告書として、冊子体の『宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究』（横手裕編、平成26年10月）を刊行した。この冊子の目次により全体の内容を示せば下記の通りである。

（目次）

はじめに：調査の概要

第一部 宮内庁書陵部所蔵道蔵の研究

宮内庁書陵部所蔵道蔵の由来（横手裕）(1)

宮内庁書陵部所蔵道蔵の現場（横手裕）(2)

現行本道蔵の性格とその校勘に関する初步的考察（横手裕）(3)

第二部 宮内庁書陵部所蔵道蔵洞真部目録稿

まえがき

凡例

宮内庁書陵部所蔵道蔵洞真部目録稿(4)

第三部 京都大学附属図書館所蔵道蔵の研究

京都大学附属図書館所蔵道蔵（金志玟）(5)

このうち、主要部分である(1)～(2)は次のような内容となっている。

(1) 道蔵が江戸時代の天明二年もしくは明和七年に長崎に渡来し、豊後佐伯藩に購入され、江戸幕府への献上を経て、宮内庁書陵部に所蔵されるまでの過程を、出来る限り細かく追った。

(2) 宮内庁書陵部に所蔵される道蔵の現状について、函、帖、紙、印記、扉絵、刊記、句

点や圈点の有無、界線、補鈔等について、書誌学的観点から報告を試みた。

(3)宮内庁書陵部本道蔵と通行の影印本道蔵を比較することにより、後者が清代の遅い時期に出来たものであることや、欠損部分がかなりあることの不完全性の問題を浮き彫りにし、道蔵どうしの校勘の必要性について問題提起した。

(4)道蔵は三洞四輔すなわち洞真部・洞玄部・洞神部・太玄部・太平部・太清部・正一部の7部から成るが、今回は第一次調査と位置づけ、宮内庁本としては三洞四輔あわせて1421タイトルある經典類のうち、最初の洞真部に属する316の經典類について、書誌情報を詳しく載せた目録を作成した。

(5)京都大学附属図書館に収蔵されている道蔵の部分經典16種について、京大に収蔵されることになった経緯や各經典の現状等について、調査と考察をまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

横手 裕、宮内庁書陵部所蔵道蔵の由来、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究、査読無、2014年、13-40

横手 裕、宮内庁書陵部収蔵道蔵の現場(洞真部)、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究、査読無、2014年、41-59

横手 裕、現行本道蔵の性格とその校勘に関する初歩的考察、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究、査読無、2014年、57-67

横手 裕、明清時代の“經籙三山”、第五屆中日学者中国古代史論壇文集、中国社会科学出版社、2014年、298-318

金 志玟、京都大学附属図書館所蔵道蔵、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究、査読無、2014年、135-170

横手 裕、真祭鍊之道 鄭思肖の祭鍊法と救度、沈淪・懺悔と救度：中国文化的懺悔書写論集、台湾中央研究院中国文哲研究所、2013年、173-192

横手 裕、洞天包山林屋洞、洞天福地研究、査読無、2巻、2012年、65-83

渡辺麻里子、天台談義と『法華經』、渡辺宝陽監修『法華經の事典』、査読無、2013年、

402-414

金 志玟、伝・訣・經 上清經の形成についての略論、中国思想史研究、査読有、34巻、2013年、127-146

横手 裕、道教と唐宋王朝、アジア遊学、査読無、No.151、2012年、117-131

渡辺麻里子、中世文学研究における寺院資料調査の可能性、中世文学、査読有、23号、2011年、33-39

〔学会発表〕(計11件)

横手 裕、蘇軾的内丹説、Conference on Middle Period China, 800-1400、2014年6月5日、ハーバード大学(アメリカ・ボストン市)

渡辺麻里子、唱道と説法、説話文学会、2014年9月27日、専修大学(東京都千代田区)

渡辺麻里子、『宗要直兼集』について、天台宗教学大会、2014年11月7日、叡山学院(滋賀県大津市)

横手 裕、仇兆鰲と内丹修鍊、2013宗教生命關懷国際學術研討会 丹道養生及人生終極關懷、2013年12月6日、正修科技大学(台湾・高雄市)

横手 裕、明清時代の經籙三山、第五屆中日学者中国古代史論壇、2013年8月28日、湖南大学(中国・長沙市)

横手 裕、日本宮内庁書陵部収蔵明版道蔵的由来と現状、発表者単独の公演(招待講演)、2012年11月27日、ハイデルベルク大学(ドイツ・ハイデルベルク市)

横手 裕、Daoist self-cultivation in Song-Yuan period、Modern Chinese Religion: Value Systems in Transformation, Part 1. Song-Liao-Jin-Yuan、2012年6月27日、香港中文大学(香港)

横手 裕、日本宮内庁書陵部の『道蔵』、中国社会科学院宗教所學術講座(招待講演)、2012年5月22日、中国社会科学院(中国・北京市)

渡辺麻里子、『鷲林拾葉集』の引用書目について、第五十四回天台宗教学大会、2012年11月10日、叡山学院(滋賀県・大津市)

金 志玟、從内伝看道教修行過程与世界構造、中・日・韓宗教学術論壇 道教与中国文化、2012年12月24日、華僑大学(中国・泉

州市)

金 志玼、道教の身体論と医学知識：黄庭経及び大洞真経の読みを中心に、国際ワークショップ：東アジア世界の「知」の伝統：科学と思想、宗教のあいだ、2012年6月22日、ソウル大学（韓国・ソウル市）

〔図書〕(計1件)

横手 裕編、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の研究、2014年、170

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横手 裕 (YOKOTE, Yutaka)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：10240201

(2) 研究分担者

渡辺 真理子 (WATANABE, Mariko)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：30431430

(3) 研究分担者

金 志玼 (KIM, Jihyun)
京都大学・人間・環境学研究科・准教授
研究者番号：20553473